

中学校体育教師の指導力向上の方策について
—大学における教員養成カリキュラムに着目して—

Effective idea that junior high school Physical Education teacher's ability progress in teaching
Focusing on the curriculum for prospective teachers in college

1 k 0 7 B 0 3 8 - 7 大西はるか

指導教員 主査 友添秀則先生 副査 吉永武史先生

【本研究の動機】

私は高校生の頃から体育教師になることを目標にし、この大学に入学した。そして教職の講義を取り実技の講義や、教師に必要な知識を得るための講義を受けてきた。模擬授業や、教育実習を経験し、感じたことは、大学卒業時における体育教員の能力で中学校の体育授業を行う指導力が備わっているのだろうかということだ。大学の教員養成カリキュラムでは、最低限の単位を取ることで教員免許状は取得できる。しかし最低限の単位だけでは指導力が身につくとは思えない。私は体育教師に必要な指導力は、ある程度大学の教員養成カリキュラムの中で身につけるものだと思う。そこで大学の教員養成カリキュラムを考察すれば体育教師の指導力向上に有効な策が出てくるのではないかと思い本研究を行った。

【本研究の目的】

本研究では、まず体育教員の使命・資質能力を明らかにし、求められる体育教員像を探り、教員養成カリキュラムにおいて形成すべき能力を見出す。そして大学の教員養成カリキュラムを考察し、形成すべき能力と比較し指導力向上のための方策を明らかにする。

【研究方法】

第1章では、文献や先行研究から、教員養成の変遷を戦前・戦後に分けて概観する。第2章では、体育教師の使命と必要な資質能力について考察をする。また1都3県の教育委員会が求める教員像をもとに求められる教員像を明らかにする。そして現行の体育教員の指導力の実態を明らかにし、不足している能力を探る。また教員志望の大学生と現行の体育教員が理想とする資質能力の比較をし、教員養成カリキュラムにおいて形成すべき資質能力について考察する。第3章では、第1章から第2章で考察した内容と照らし合わせ、早稲田大学スポーツ科

学部の教員養成カリキュラムについて考察する。また、他大学と比較し、他大学から参考にするべき点や、改善する点などを考察・提言を行い、今後の教員養成について提言を行う。

【各章の概要】

第1章では、戦前・戦後に分け、教員養成の変遷について概観した。戦後「開放制」になった教員養成は、専門知識を取り入れることが可能になり、教師の資質能力は上がったが、現在の教育現場には様々な問題があり、多様なニーズに応えることができる能力を身につけなければならない問題点を明らかにした。

第2章では、文献などから教員の使命・必要な資質能力・求められる教員像について明らかにした。また現行の体育教員と教員志望の大学生が理想とする資質能力を比較し、大学教員養成カリキュラムにおいて、形成すべき能力を考察・提言した。

第3章では、早稲田大学スポーツ科学部の教員養成カリキュラムの「教科に関する科目（保健体育）」について第2章で明らかにした形成すべき能力と照らし合わせ考察した。

また、他大学と比較し各大学において差が生じているのか考察した。大学における教員養成カリキュラムを比較した結果は、内容は似ているが、「体育実技」の設置数や、科目の選択方法に違いがあった。そして、大学教員養成カリキュラムにおいて、不足している科目について考察・提言を行った。また、大学における教員養成カリキュラム内の教育実習の内容について整理し、各実習校において授業数などを均等にすることを提言した。

結章では、本研究の要約と今後の課題について記した。今後の課題としては「実践的指導力」を形成する授業内容を考え、教育実習だけではなく、講義でも実習（模擬授業や、マイクロティーチング）を増やすべきだと提言した。

